

— 城のある都市復活!! —

# 福岡城だより

2010年4月  
NO.25



下の橋大手門 伝潮見櫓 写真提供：(財)福岡観光コンベンションビューロー

## 福岡城復活を本物に！

NPO法人鴻臚館・福岡城跡歴史・観光・市民の会

理事長 石井 幸孝



福岡城整備に向けての取り組みが、例年になくクローズアップしてきた。多くの方々の積み上げで、永年の懸案が始動しそうな空気である。

来年春には九州新幹線鹿児島ルートが全通するが、福岡にとって良いことばかりではない。大阪や中国地方の観光客は福岡を素通りしてしまはないか。福岡市は行政・ビジネス・商業都市としての評価は高いが、観光都市としてのイメージは希薄である。博多の寺社など、数多くの観光資源があるのに、誰もが真っ先に思いつくランドマーク的な大型観光スポットがないためである。海外や遠来の来訪客からは観光地と理解されていない。今、五年後、十年後を見据えて、国内外の都市に負けない滞在型観光都市として、打つ手に抜かりはないか。市民の意識にも責任がある。郷土や歴史への愛情や誇りも育みたい。

昨年十二月には当NPOから市長あて「官民協働の福岡城整備基金構想」の提言をした。市議会での関係議員のご努力もあって、新年度から動き出しそうなどころにきたが、これが実るかどうかには一層の努力が欠かせない。姫路城、熊本城、大阪城にも匹敵する広大な福岡城跡地、完璧に残っている石垣に天下の名城が復活すれば全市のランドマークになる。そのためなら市民が浄財を拠出したい、企業メセナで協力したいとの声もあるが、その受け皿がないでは何も始まらない。官民協働で、基金づくりをしようとの提案を受けて勉強会がスタートした。シンポジウムも行われた。この機を逸することなく福岡城整備基金づくりに皆の情熱を結集しようではないか。





# 福岡 桜まつり 城

第一回福岡城さくらまつりが福岡市・福岡市教育委員会の主催で国指定史跡「福岡城跡」（舞鶴公園）にて三月十八日から四月四日まで開催されました。

「桜と光が福岡城に舞う」

園内の六つのエリアで城壁とさくらのライトアップ。国指定重要文化財「多聞櫓」特別夜間ライトアップ。二十日には美術館においてシンポジウム、歴史的建造物公開（伝潮見櫓・下の橋大手門・祈念櫓・多聞櫓）などたくさんイベントが催されました。

わが市民の会も福岡城さくらまつりに協力し二十一日に多聞櫓苑内にて「福岡城・観桜の宴」を開きました。

午前十一時、開宴の式、十一時十五分から「福岡城内のさくらのお話」吟詠「桜を詠む」長唄組曲サクラ、舞踊正調博多節、NPO 博多笑い塾、博多にわか、民謡などにぎやかに出演者・観客ともども、ちらほら一分から三分咲きの桜の木々にかこまれて、ひとときをたのしみました。午後三時に祝いめでたで閉会となりました。

会員の皆様来年もまた、ぜひご参加をお待ちしております。



第49回 福岡市民の祭り

## 博多どんたく 港まつり



第49回

祝うたア!!  
甦れ福岡城!

◆五月三日（祝・月）

◆五月四日（祝・火）

◆舞鶴公園西広場

（福岡城西三の丸）

福岡城どんたく演舞台は六回目を迎えます。

伝統の博多松囃子「三福神流れ」「稚児流れ」「博多にわか」からフーや手話ダンスなどもりだくさん。四日には黒田長高様もお見えになります。

黒田藩古武道、福岡藩砲術・陽流抱え大筒の披露など福岡城の演舞台ならではの演目です。

ぜひぜひ舞鶴公園にお出かけください。



# 福岡城探訪

青年貴公子

七代黒田治之

藤 金之助



後継者に恵ま

れなかった継高

は、一橋家、徳

川宗尹の二男、

隼之進を養子に

迎える。宗尹は

八代将軍、徳川

吉宗の四男であるから隼之進は吉宗の孫にあたる。この縁組みには將軍家や幕府の強い働きかけがあった。

明和六年（一七六九年）十二月、継

高は六十六歳で隠居、隼之進は名を治之と改め、第七代福岡藩主となり、翌

年四月、初めて福岡への国入りをす

る。十八歳の若年でもあり、藩政の実権は継高が握っていた。この体制は継

高が七十三歳で没するまで続き、治之が藩主として力を発揮したのは六年余りである。

治之も武術の奨励には熱心で江戸から帰国する度に剣術、槍術、馬術、射術など家中の武芸の上覚を行い、福岡城三の丸の館の傍に馬場を作り、自から度々乗馬したという。

また定期的に経書、兵書は勿論、論語や孫子など藩内の学者から講義を受

けていた。

治之は藩士の武芸、学問の素養を高

めるため卒先して努力を重ね、重臣に

東西学問所を作ることを検討すること

を命じたり、町医者ながら荻生徂徠の

古学派であつた亀井南冥を儒医として

抜擢したりしている。

治之自身は將軍吉宗の孫という育ちの良さからおっとりとした優しい貴公子だつたらしくそれを物語るエピソードもある。

治之が領内を巡視した時、田畑に百

姓の姿が全く見えず「どうしたのか」と尋ねると、「殿様ご巡視の際に見苦

しい風態をお目にかけてはならぬから百姓は皆、家の中に引っこんでおれ」と命じたからであつた。

治之は「そういうことはいけない。一日たりとも耕作をおろそかにしてはならぬ」と言つて遠慮なく野良に出て

働くように命じた。

また或る時、道を覆つて伸びているハゼの枝が切り払われているのを見て、これも何故かと訪ねると殿様のご

通行の邪魔になるから切つたのだと言

う。治之は「百姓の利益、ひいては国

のためになるものを切るとは以ての他である。」と言つてたしなめた。

寛永十六年（一六三九年）から実施

された鎖国は多くの悲劇を生んだが、

治之治世の福岡でも韓泊（元福岡市西

区唐泊）の漁師、孫太郎の話がある。

孫太郎の乗り組んだ伊勢丸が筑前か

ら江戸を経て津軽に向かう途中、暴風

に会い百日ほど漂流のあとフィリピン

のミンダナオ島に着いたが、現住民に

積荷も所持品も取られ、奴隷として扱

かされる。

乗組員二十名は次々と死亡、ひとり

になつた孫太郎は中国人に売られ、そ

こで中国語を覚える。その後、オラン

ダ人に引き取られて長崎に帰国するこ

とができた。故郷を出て八年、明和八

年、孫太郎二十九歳の時である。

長崎で嚴重な取り調べを受け、駕籠

に乗せられ唐泊に送られて懐かしい兄

と涙の対面をする。彼の異国での見聞

は鎖国時代の貴重な情報源なので福岡

藩では蘭学者の青木定遠に命じて聞き

書きを行い、これは「南海記聞」とし

て残っている。

孫太郎は郷里で日傭いなどしていた

が、いつも仲間はずれで淋しい晩年を

おくり六十四歳で亡くなった。

天明元年（一七八一年）八月二十一

日、治之死去、三十歳であつた。治世

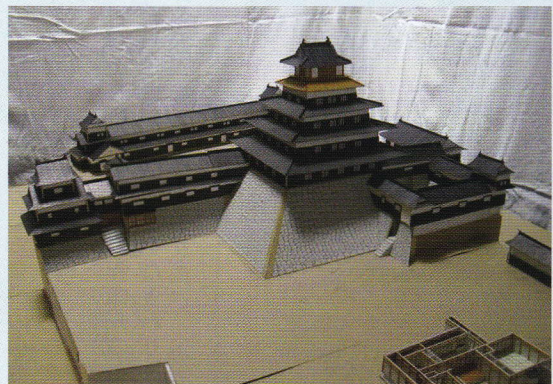
十三年、そのうち治之自身が実権を振

るつたのは僅か六年であつた。墓は崇

福寺の黒田墓所にある。

## 郷土の歴史講演会

### 「戦う城・福岡城と黒田家の人々」



黒田如水・長政が造った  
福岡城天守閣と武具櫓の模型

日時 平成二十二年五月八日（土）

場所 福岡市市民福祉プラザ五階

福岡市中央区荒戸三―三―三九

#### テーマ

「戦う城・福岡城と黒田家の人々」

#### 演題

一、福岡城「下之橋御門復元」と

今後の整備計画

二、黒田家の人々

「黒田如水の妹・妙円尼」他

三、福岡城本丸の模型制作から

見えてくるもの

人員 百二十名

#### 参加費

福岡城市民の会の会員…無料

一般…三百円

#### 参加申込み

福岡城市民の会

TEL 092-716-8238

FAX 092-716-8254

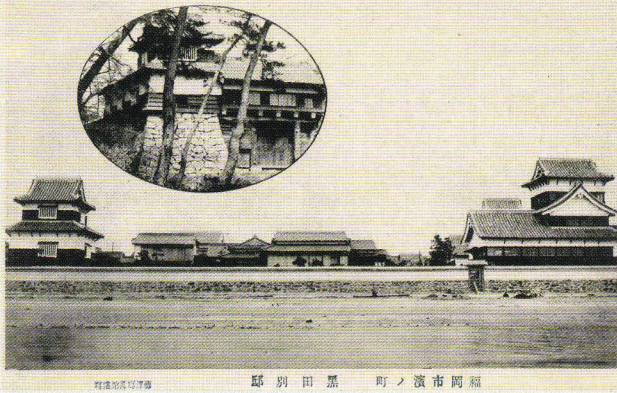


# 福岡城の謎

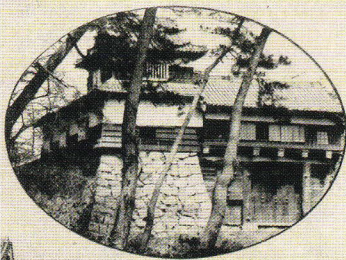
会員 後藤 仁公

## 伝潮見櫓は やはり太鼓櫓か

珍しい写真が発見された。福岡市浜町にあった黒田家別邸の絵葉書写真である。この写真には福岡城本丸にあった武具櫓と、現在下の橋大手門脇に建っている潮見櫓とよばれている櫓が写っている。絵葉書が未使用なため消印等なく、詳しい発行年代は分からないが、写真に写っているこれらの建物は、大正期に福岡城内から、この別邸に払い下げられていることから、これ以降の状況と思われる。



中央が黒田家の建物で右が武具櫓、左が伝潮見櫓



○内は、上の絵葉書の拡大写真。  
左が太鼓櫓、右は本丸裏御門

の二つの櫓を福岡城へ戻し復元しようとして調査したところ、月見櫓と伝えられていた伝潮見櫓の小屋裏に取り付けられていた棟

その後、武具櫓は昭和二十年に空襲で焼失し、潮見櫓とよばれている建物は被害にはあつたが焼失は免れ、昭和三十一年に現在の位置に移築され県の文化財に指定されている。

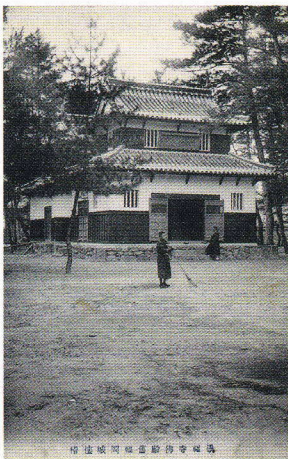
問題は○で囲まれた部分の写真である。本丸裏御門と太鼓櫓（古時打櫓）の福岡城内の写真である。この二つの建物は少し角度を変えた位置からの古写真も残っているため、裏御門と太鼓櫓であることは確かである。この○内の写真がここに載っていることに大きな意味があると考えられる。福岡市教育委員会が発行した「福岡城の櫓」によると、城内に残っていた櫓のうち花見櫓と月見櫓が明治四十一年に崇福寺（現 博多区千代）に払い下げられ仏殿として使用されてきた。しかしこ

札から塩見櫓との記載が発見された。つまり崇福寺に移築されていた建物は花見櫓と潮見（塩見）櫓であった。

では現在、潮見櫓とよばれている建物は、何であったのか、その答えが、この絵葉書の○内に写っている太鼓櫓ではあるまいか。櫓の形状もよく似ており、隣に写っている本丸裏御門も黒田別邸の絵葉書には写っていないが、同じように別邸へ移築されている。なにより一枚の写真にこのように配置されていることは、そのことを現しているのではなからうか。この絵葉書写真だけでは伝潮見櫓が太鼓櫓であるとは断言できないかもしれないが、福岡城の謎を解く一つの資料になれば幸いである。



下の橋に建っている伝潮見櫓（現在）



崇福寺に移築されていた花見櫓（手前）と潮見櫓（明治後期頃）

### 新規会員名簿（平成22年3月30日現在）

#### 一般会員（個人）

稲田 英文	府内 和弘
井上 恭子	三木 和信
高山 武富美	三木 陽介
波多江 裕之	

#### 一般会員（団体）

NPO 法人西日本建設技術ネット

### 編集後記

福岡城市民の会は今年度こそ新しい活動が始まりそうです。永年一すじの道を進んでまいりましたが、形になって皆様のご期待にそえるのではと思っております。

また、「お城だより」も満五年目の出版にあたりネーミングを「福岡城だより」といたしました。

黒田家にゆかりのある会員の小池玲子さんに、毛筆で書いていただきました。

新たな船出に会員の皆様方のお一層のご支援、ご指導をたまわりますよう切に願っております。

#### 編集・発行:

鴻臚館・福岡城跡歴史・観光・市民の会

#### 住所:

〒810-0042 福岡市中央区赤坂1-12-15  
読売福岡ビル7階

TEL:092-716-8238

FAX:092-716-8254

#### HPアドレス:

<http://fukuokajokorokan.nngo.jp/>

#### E-mail:

[fukuokajo@tos.bbq.jp](mailto:fukuokajo@tos.bbq.jp)

デザイン・印刷: S&Mトラスト株式会社